もしあなたのやる事が全て上手く行っているとしたら……

If Everything You Try Works …

北海道科学大学工学部／北方地域社会研究所 木村 尚仁
Naohito KIMURA

『もしあなたのやる事が全て上手く行っているとすれば、それはあなたが十分な挑戦をしてないということだ。』

これはインテルの創始者であり、集積回路の成長についての経験則である「ムーアの法則」でもお馴染みのゴードン・ムーアによるもので、サンノゼの技術革新博物館の外壁の下に刻まれた言葉として知られています。これはいわば私の座右の銘で、ものごとが上手く進まない、壁にぶつかった、失敗してしまった、落ち込んでしまったというときに、心の支えになっている貴重な言葉です。もちろん論理的には必ずしも、上手く行かなかったのは大きな挑戦をしたからだ……とはならず、もっと残念な失敗もたくさんあるのですが、でもいざというときにこの言葉は効力を持ちます。

さて一方で「失敗を恐れるな」という言葉も良く見聞しますが、失敗の可能性があるとことに突っ込めば当然それなりの確率で失敗するでしょう。それでも私は失敗の可能性がある中に、思い切って、あるいは慎重に構えながら果敢に挑んでいく必要があります。

そのときに大事なことは、できるだけしっかり準備し、真剣に（でも常に遊び心も持って）取り組むことだと思います。漫画「宇宙兄弟 11巻」（小山宙哉、講談社）の中に主人公ムッタの言葉に、

「本気の失敗には価値がある」（p.173）

「モノ作りには……失敗することにかかる金と労力が必要なんだよ」（p.103）

「失敗を知って乗り越えたモノならそれはいいモノだ」（p.103）

というのがあります。これらも実に腑に落ちる言葉で、失敗から学べることはたくさんあり、失敗には確かに価値がある。でも不誠実な失敗やぬるい失敗じゃ駄目なのですよね。それではそこから得られるものはほとんどない。やるからには、本気で遊び心をもって取り組むことが何より重要かと思います。

さて人類はこれまでの歴史の中で、文明を発展させるために試行錯誤を重ね、数多くの失敗に向き合ってきました。それらの失敗から学び、それがあったからこそ新しいイノベーションが生まれたとも言えるでしょう。特に工学の分野で失敗と向き合い、どう活かしていくか。この課題についての第一人者はいうまでもなく、失敗学の創始者、畑村洋太郎氏でしょう。私は3年ほど前から学部3年の必修科目「技術者の倫理」を担当するようになり、失敗学会による「失敗知識データベース」は大いに活用させて頂いています。また技術者倫理といえ、札野順氏の講演や彼らの研究グループによるワークショップに参加させて貰っています。その中で技術者倫理の考え方について従来の予防倫理から、積極的にwell beingをめざす志向倫理へ変化していることなども学びました。

これからのSociety 5.0をめざしていく世の中ではさらに失敗の質が変化し、また失敗との付き合い方も大きく変わってくることが考えられます。工学および工学教育に携わる者として失敗への向き合い方を改めて考える必要をひしひしと感じています。

ご存知ですか？

「工学教育」の前身誌「工業教育」創刊号から
論文や論説が Web で簡単に！！

科学技術振興機構（JST）の行う Journal@rchive が J-stage と統合され使いやすくなりました。1953 年の創刊号から、どなたでも閲覧が可能です。日工教のホームページ (<https://www.jsee.or.jp/>) からどうぞ！

◀ 「新制大学における工業教育」内田俊一（東京工業大学長）
「工業教育」第1巻1号 p.1（1953）